

羽田イノベーションシティにおける区施策活用スペースの 令和元年度の取組状況について

1 概要

羽田イノベーションシティにおける区施策活用スペースの導入機能等の整理に向けて、以下の事業を実施した。

(1) 区施策活用スペースの開設準備

羽田みらい開発株式会社（以下「SPC」という。）から借り受ける区施策活用スペース（以下「本スペース」という。）について、以下の検討・取組を行った。

○本スペースの名称を「HANEDAxPiO（ハネダピオ）」とした。

○本スペースは、3つのゾーンから構成する。

交流空間ゾーン：ブース型オフィスエリアとロビー
エリア

テナントゾーン：区の政策的な目的に合致した企業
誘致エリア

事務・共用ゾーン：区や産業振興協会のサービス等
の提供窓口と打合せ・セミナー
実施エリア

【交流空間ゾーン：イメージ図】



○17区画あるテナントゾーンの募集を行い、8事業者を入居予定者として選定し、入居に向けたヒアリング及び契約に向けた協議を行った。

○交流を促すための空間整備や取引拡大につながるソフト支援等を検討した。

○施設の事業運営と施設維持業務について、管理体制等の検討を行い、事務ゾーン内に産業振興協会の執務機能を設けるとともに、交流空間に関しては産業振興協会が運営を行うこととした。

○本スペースの目的、置き込む機能や想定する取組内容等を示したコンセプトブックを作成し、イベント等を通じて国内外に向けて情報発信を行った。

(2) スタートアップとものづくり企業の連携創出実証実験事業

区内製造業と親和性のある東南アジアの海外スタートアップ、国内のスタートアップと区内企業との接続を行い、連携事例を4案件創出した。また、機会を捉えて大田区の町工場技術の優位性を国内外に広く発信するとともに、国内外のスタートアップ案件に区内企業が関わる体制づくりのきっかけを得ることができた。